

国語科学習指導案

指導学級：2年1組 29名
指導場所：2年1組 教室
指導者：教諭 山口 裕範

1 単元名 「人間の生きる姿をとらえよう」 教材名「走れメロス」（太宰 治）

2 単元について

(1) 教材観

本教材は、自分の身代わりとなった友との約束を守るため、幾多の困難を克服して定刻までに王城にたどり着こうとする主人公メロスの姿を中心に描かれた作品である。「愛」「友情」「真実」などを主題としていると読むことができるが、登場人物の内面の揺れや葛藤、苦悩の描写を時間の経過とともに読み進めていくと、様々な視点から読み深めることができる。残虐で人間不信の塊である王ディオニスの人間的苦悩、正義感あふれるメロスの心の中にひそむどろどろした私欲。ストーリーの展開とともに変容していく人間像と場面ごとの仕掛けなどから、生徒一人ひとりの着眼点をもとに多様な読みが実感できる作品であると考えられる。【内容的意義】

本単元では、情景や心情の描写をとらえて作品を味わう力を定着させ、描写を手掛かりにして登場人物の心情や生き方を読み取る力を身に付けさせることを目指す。人物の言動とそれを支える心情の描写に着目し、それぞれの表現の特徴を理解させる。【言語能力的意義】

本教材は、二年生で学習する物語・小説の二編のうちの一つである。「小さな手袋」が学年の始まりとしての位置付けをもっているのに対し、本教材は、本格的な近代小説に真正面からぶつかる形になっている。その意味では、一年生の「トロッコ」、三年生の「故郷」と並んで、本格的な近代小説教材が、各学年一遍ずつ配置されていると言える。また、これらの作品は「トロッコ」が自己を問題としているのに対し、「走れメロス」は他者との関係性の問題を捉え、「故郷」が社会に向かっていくという系統性の中に位置付けられている。【連関的意義】

(2) 生徒観

本学級の生徒は、しっかりした態度で授業に臨んでいる。全体での発表は控えめな生徒が多いが、与えられた課題にしっかり取り組むことができる。しかし、個人の力だけで十分に読み取ることができない生徒もいるため、他者との話し合いを通して読み深める学習を展開したい。なお、生徒は説明的文章の学習のなかで文章中の表現に着目して段落の内容をまとめる学習に取り組んだ。その学習を生かして、焦点化して人物の考え方を捉える学習を行いたい。

(3) 指導観

指導に当たっては、登場人物の二面性や葛藤の様子、心情の変化の描写や情景描写、会話に着目させて、時間の経過とともに丁寧に理解させたい。個々の読み取りだけでなく、他者の読み取りとの比較や交流を通して、自己や他者の多様な読み取りに気付かせ、作品を様々な視点から捉えて読み深めようとする姿勢を身に付けさせたい。

3 単元の学習目標

- 進んで文章を読み、課題について話し合ったり、自分の読みとったことをまとめたりすることができる。【関心・意欲・態度】
- 情景描写や心情描写に着目して、人間の生き方について考え、自分の意見をもつことができる。【読むこと イ・エ】
- 作品に使われている様々な表現から、語感を磨き、語彙を豊かにすることができる。【言語事項】

4 単元の指導計画

(1) 指導計画

○ 本単元における言語活動

メロス、セリヌンティウス、ディオニスの三人に着目し、初めと終わりの場面での人物の考え方の変化を捉え、変化の理由について考えを交流して深め、終わりの場面での考え方を人物の視点で書く。（関連：言語活動例ア）

過程	時	主な学習活動	指導上の留意点 言語活動(☆)・ICT活用(◎)の工夫
導入	1	1 新出漢字や語句の意味を確認する。	◎ ペンタブレットを用い、筆順の確認をする。 ・ 主人公だけでなく、三人の人物に着目させる。 ☆ 単元を貫く言語活動に基づいた学習課題を設定する。
		2 全文を通読して大まかなあらすじを捉え、メロス、セリヌンティウス、ディオニスの三人の第一印象を書く。	
		3 学習課題を設定する。 【単元の学習課題】 登場人物の心情や情景描写に注目して読み、考え方を変えたものは何かを考え、その人物になりきって考えを書こう。	
展開	1	1 場面の構成や文体・表現の特徴を確認する。	・ 場面の構成や文体の特徴を確認させる。 ・ 人物の考え方を捉えるための描写への着目の仕方を確認する。（心情表現、言動など） ・ デイオニスの心は本当に悪なのか、王城に召されてメロスをひしと抱きしめたセリヌンティウスの気持ちについても考えさせる。 ・ 4場面の山賊は本当に王の命令で待っていたのかも考えさせる。 ・ ワークシートに記入させる。
		2 1・2場面を読み、叙述を基に、メロス、ディオニス、セリヌンティウスの人物の考え方と三人の相関関係を捉える。	
	2	1 3～5場面のメロスの描写を基に、心情の変化や生き方、考え方をとらえる。 (1) 本文の描写を付箋紙に書き出す。 (2) 書いた付箋をマッピングして、人物の考え方を押さえる。	・ メロスの描写を付箋紙に書かせ、グループで話し合っマッピングさせながら心情を押さえさせる。 ・ メロスが走り続けた目的の変化にも注目させる。
終末	1	1 6場面の叙述を基に、メロス、ディオニス、セリヌンティウスの人物の考え方と三人の相関関係を捉え、変化を確認する。	・ ワークシートに記入させる。 ☆ それぞれの考えを基に、グループでの交流を通して考えを深めさせる。 ・ 考えを一つにまとめるのではなく、さまざまな考えを聞くことで自分の考えを深めさせる。 ・ ワークシートに記入させる。 ・ 構成は三段で、人物の視点で書かせる。 ◎ 書いたものを書画カメラを用いて発表させる。 ・ 三人の人物について一人ずつ指名する。
		2 1・2場面と6場面で、メロス、セリヌンティウス、ディオニスの三人の考え方がなぜ変わったのかを考える。 (1) 個人の考えをワークシートに記入する。 (2) それぞれの考えをグループで発表し合い、考えを交流する。	
		3 交流したことをもとに、三人の人物から一人を選び、それぞれの人物の考え方が初めと終わりでなぜ変わったか、その理由を書く。 4 書いたものを発表する。	

5 本時の実際（6／6）

(1) 教材名 走れメロス

(2) 学習目標

- 初めと終わりの場面を比較して、人物の考え方の変化の理由について、自分なりの考えをもつことができる。
- 話し合いを通じて考えを深め、人物の視点に立って思いを書くことができる。

(3) 研究仮説に沿った授業設計の視点

- 終末の段階で、書画カメラを利用した発表活動の場を設定する。発表内容を視覚的にもとらえさせて注目を高めることにより、理解の促進を図る。
- 人物の変化の理由について、グループによる交流を通して考えを深める活動の場を設定する。個の考えをもとに交流し合うことで、さまざまな考えに触れさせ、その後の各自の思考の深化を図る。

(4) 評価規準と生徒の姿

観 点	評価規準	生徒の姿
読む能力	① 文章の描写の効果や登場人物の言動の意味などを考えて、内容を理解している。 ② 文章に表れているものの見方や考え方に対して、自分の考えをもっている。	① まとめたものをもとに、三人の人物の考え方を簡単に説明することができる。 ② 人物の考え方の読み取りから、人物についての自分の考えを短い文章に書くことができる。

(5) 授業の展開

(☆：言語活動, ◎：ICT活用)

過程	時間	形態	学習活動	指導上の留意点	仮説実証の視点
導入	3分	一斉	1 前時までの学習を振り返る。 2 学習課題を確認する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 前時までのワークシートで、人物の変化を読む学習をしてきたことを確認させる。 ・ 黒板に掲示する。 	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> 「私はこう変わった！」 終わりの場面でなぜ、どのように変わったか、その人物になりきって気持ちを書こう。 </div>					
展開	5分 8分 15分	一斉 個 グループ	3 前時までにまとめたものをもとに、人物の考え方や関係がどのように変化したかを確認する。 4 確認したことを基に、何が変えたのか、自分なりの考えをもつ。 5 個人の考えを基に、グループで考えを交流する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ ワークシートを用いて確認させる。 ・ 自分の考えをワークシートに記入させる。 ・ 自分の考えの理由も含めて説明させる。一つにまとめるのではなく、多様な考えに触れさせる。 	☆ 交流を通して他者の価値観に触れることで、自分の考えを深めさせる。

過程	時間	形態	学習活動	指導上の留意点	仮説実証の視点
展開	10分	個	6 三人の中から一人を選び、交流したことを基に、以前の考え方、変わった理由、終わりの場面での考え方の三段構成で、その人物の視点に立って書く。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 机間指導を行い、必要に応じて揺さぶりや投げかけを行う。 ・ ワークシートに記入させる。 ・ メロスだけにならないように投げかける。 ・ 段落をつなぐ適切な接続語を用いるように指示する。 	☆ 交流したことを基に、その人物の視点で考えを書かせる。
終末	9分	一斉	7 書いたものを発表する。 8 学習を振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 三人の人物それぞれについて書いた生徒を一人ずつ指名する。 	◎ 書画カメラで作品を提示しながら発表させる。

(5) 検証の方法

- ・ 学習意欲……生徒の発表の様子、話し合いへの参加の様子などを観察する。
ワークシートへの記入、課題への取組、態度を観察する。
- ・ ICT活用…提示することで理解できたか、自己評価カードで確認する。
集中して発表を聞いているか、様子を観察する。
- ・ 言語活動……グループによる交流尿酢を観察する。
自分の考えをしっかりと書けているか、ワークシートで確認する。